

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年11月号

森のおくりもの 11

NO.398 The Gift from Woods



例年より気温の高い日が続き秋の装いもゆっくり進んでいるようで、カエデ類の紅葉の見頃は中旬以降になるかもしれません。もちろん、ヤマウルシなど早めに色づいた葉色も美しく、今月の森は、ぜひ紅葉をお楽しみ下さい。紅葉以外にも、昆虫が少ない時期ですが陽だまりでチョウやトンボを見かけることもありますので、一緒に日向ぼっこはいかががでしょうか。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『雲がなければ太陽のありがたさはわからない』

今年の気候には驚くばかりで、仙台でも10月2日は真夏日になり、10月24日に今年120日目の夏日が観測され、過去最も多い記録となったそうです。もうすぐ冬がやって来るという時期にこの気温で、季節の慣習と実際の体感とのギャップや寒暖差に戸惑いを感じています。天気予報では、将来的には四季ではなく二季になるかもしれないなんてことも聞きました。

季節外れの暑さで多方面に影響が出ています。全国的に話題となっていたのがヒガンバナの開花の遅れです。各名所でいつもの時期に咲き出さなくて困っていると報道されていました。ヒガンバナは地面の温度が下がった頃に開花するしくみになっています。厳しい残暑で地温が下がらず、開花のスイッチを入れられなかったのでしょうか。お彼岸の頃に咲くからヒガンバナなのに、開花期がずれると何だか変です。観察の森でも10月中旬まで花が見られました。また、海水温の上昇によりサンマの水揚げやサケの遡上が減少しています。サンマやサケは手頃に食べられる最も大衆的な魚なのに、貴少な高級魚になってしまい食卓に上がることがなくなるかもしれません。

「雲がなければ太陽のありがたさはわからない」という言葉がありました。これは英語のことわざで“If there were no cloud, we should not enjoy the sun.”を直訳すると「雲がなければ太陽の喜びはない」で、「いつもそこにある当たり前前のおかげには気づきにくい。苦しみがあるからこそ、うれしいことのおかげがわかる」という意味です。当たり前だと思っていたことが困難に直面して改めてありがたさがわかり、“当たり前は当たり前ではない”ということに気づくことなのだと思います。

日本には四季があるのが当たり前なので、四季があるおかげを普段は感じないでしょう。お店の米売り場に米がなくなり、主食だというのに買えなくなり、皆さんも米のありがたさを実感したと思います。温暖化だけでなく災害や平和のことなど、いろいろ考えさせられますが、何気ない日常の当たり前は大事で素晴らしいことなのだと思います。

【レンジャー:新田隆一】



11月の生物ごよみ

【植物】 毎年5月～6月に咲くギンリョウソウなどはほとんど開花が確認されませんでした。またやすらぎの道でスギの伐木後に発生したクサギはたくさんの開花が確認されました。

【ドングリ】 昨年同様、ドングリは不作のようです。特にクヌギのドングリが少なかったように感じました。クヌギはドングリに成長するまで2年かかるので昨年の状況が影響しているのかもしれませんが。

【ナラ枯れ】 自然観察の森で初めにナラ枯れが発生したのが2013年の夏。それから11年たちますが今年は自然観察の森に関しては1本の被害もありませんでした。

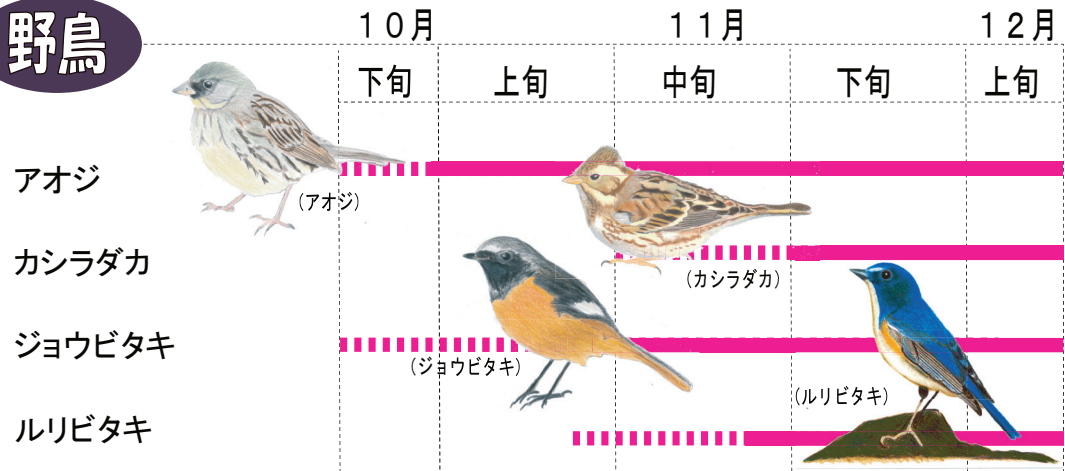
【キノコ】 キノコの発生は全体的に多かった感じです。ただ全体的に発生時期が遅れている感じなのでこれも温暖化の影響なのでしょうか。ナラ枯れの後に発生するカエンタケは今年は確認することが出来ませんでした。

【昆虫】 昨年センター内で初認された『アカボシゴマダラ』は今年は普通に確認することが出来ました。定着してしまったようです。『アカボシゴマダラ』日本では『特定外来生物』に指定されています。

【野鳥】 冬鳥の一番手『ジョウビタキ』は10月20日にセンター市道付近で確認することが出来ました。冬鳥情報も今後たくさん入ってくることでしょう。

【野生動物】 昨年度はツキノワグマの情報が多かったですが今年はセンター内で4月～5月に数回センサーカメラに映っただけでその後センサーカメラに映ることはありませんでした。 【レンジャー: 齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



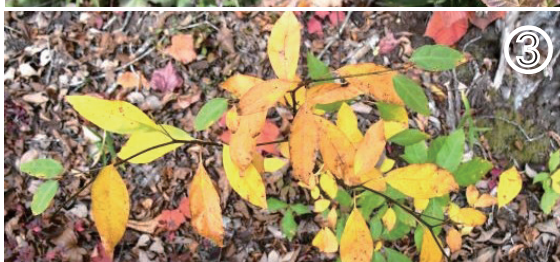
「ちいさい秋」



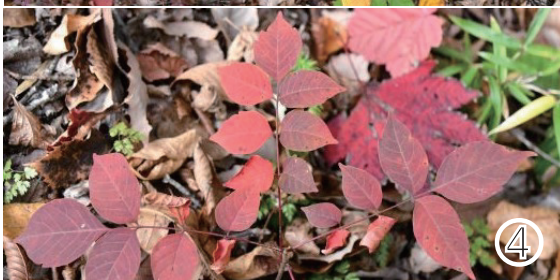
蔵王や栗駒山で紅葉がピークを迎える頃、観察の森でも紅葉が始まりました。写真①は10月下旬の駐車場のミツデカエデです。まだまだこれからですが、秋が深まり朝夕の気温の差が大きくなるにつれてもう少し色づくと思います。



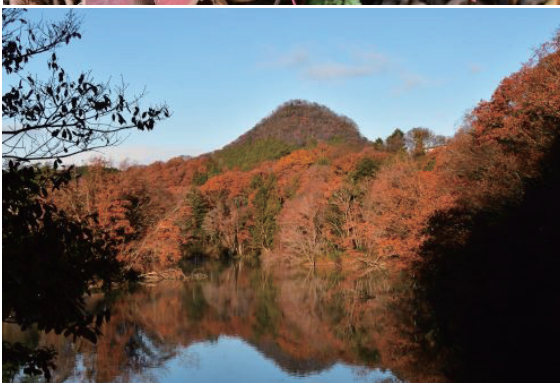
②は11月なかばの深紅のウリハダカエデです。観察の森では幼木が多いのですがなぜか大きくなった樹はあまり見かけません。



③の鮮やかな黄葉のオオバクロモジ。指先で揉むと良い香りがします。きれいな葉はつい手に取ってみたいくなりますが、中には④のヤマウルシのように皮膚がかぶれる植物もあります。葉のつき方などしっかり観察して気をつけてください。



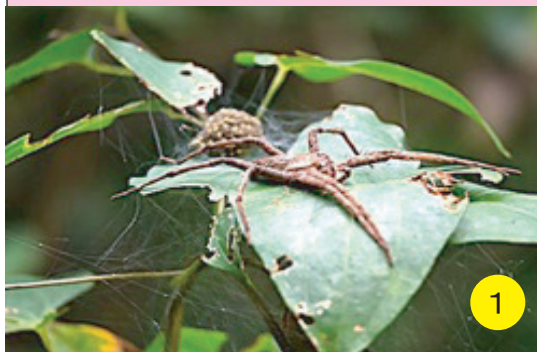
以前ガイドで紅葉になるしくみを話したことがありました、簡単に言うと葉と幹に離層ができ葉緑体が壊れる一方、葉の中にある栄養は留まり、隠れていた紅（ポリフェノール）や黄（カロチノイド）が見えるようになります。だから「紅葉」ではなく「壊緑」とか「減緑」というのが正しい表現ではないでしょうか!!と。いったところ、やはり微妙な空気になりましたね～（笑）。ちなみに壊緑なんて言葉ありません。



凜とした大気の中パッチワークのように赤や黄に染まったトレイルを散策するのはとても心地の良いものです。朝夕はますます冷えていきま、暖かくしておいで下さい。

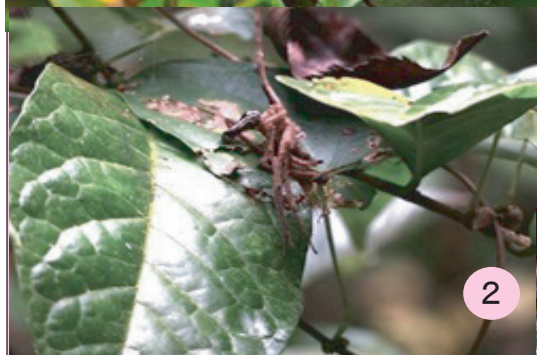
【レンジャー：木田秀幸】

森は生きている



1

① 網を張らずに獲物を狩るキシダグモ科のクモ、お母さんグモは球形の卵のうを口に咥えて運び一ヶ所に小さな網を張り、子グモが散っていくまで見守ります、後ろに見えるのは、「まどい」と言われる子グモの集団 ② 何日か後に原因は分かりませんが、お母さんグモが力尽きていました。③ 残された「まどい」の子グモたち、生き抜いてほしいですね。④ ヤマカガシに襲われるアズマヒキガエル、実はカエルには毒があり、食べることによりヘビはその毒を自分の毒にします。⑤ 観察センターの希少な井土メダカに稚魚が産まれました！ ⑥ 寄生されたアケビコノハの幼虫。



2



3



4



5



6

秋も深まりましたが、寒かったり、暑かったり不思議な気候ですね、森の中では生き物たちが、小さな世界で生存競争を繰り広げてます、たまには森の小さな世界を覗きに歩いてみませんか？

【レンジャー：菅井 潤】

のイベント & お知らせ

イベント

◆「晩秋の鉤取山ネイチャーウォーキング」

- ・自然や歴史などについて講師の解説を聞きながら、秋の鉤取山国有林の森を歩きます。

【日時】11月23日(土) 10:00~15:00

【対象】小学生以上 中学生以下は保護者同伴 20名

【持ち物】昼食、飲物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】往復はがきで11月12日(火)必着〔抽選〕(市政だよりを参照)

◆「クリスマスのリースを作ろう」

- ・針葉樹の葉や木の実などを使ってクリスマスのリースを作ります

【日時】11月30日(土) 10:00~11:30

【対象】小学生以上 10名

【持ち物】特になし

【申込み】11月6日(水)午前9時から電話で受付〔先着〕



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

開催日: 3日, 10日, 17日, 24日

開催時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00

※4月~11月は午前と午後実施します

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

11月の休館日

5日(火)、11日(月)、
18日(月)、25日(月)
※月曜日が祝祭日の場合、
翌日以降の平日が休館

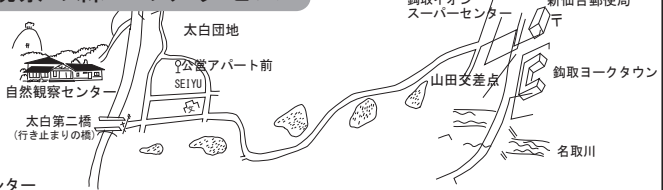
宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

2024年11月号

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「杜のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>